

まつり委員会担当副理事長方針

古山 雄太

我々が住み暮らす中津川には、ふるさとのまつりとして「おいでん祭」があります。地域の繋がりや人との繋がり、郷土愛を育むために、1987年に先輩諸兄と多くの市民の方の熱い想いを集結させ、「おいでん祭」が立ち上がりました。その想いがまちへ希望を与え、次代へと繋げていただいたことで、今年で33回目を迎えます。「おいでん祭」が今後も「誰の心にも繋がるふるさとのまつり」へと近づくように、我々が引き続き新たな運動を推進し、次代へ継承していくことが重要であると考えます。

「おいでん祭」は、「誰の心にも繋がるふるさとのまつり」を目指し、継続してきたことで毎年多くの来場者が訪れる夏の風物詩として定着して参りました。「おいでん祭」を「見るまつり」として楽しみにしている人は多く、来場者が増えることでまちが活気づくことは大切であると考えます。一方で、地域の繋がり希薄化する現代においても、まつりは地域や人を繋ぎ、郷土愛を育むためには、最もわかりやすい取り組みだと考えます。こうしたまつりを今後も市民に提供することで、「誰の心にも繋がるふるさとのまつり」として、「おいでん祭」が地域に必要とされるまつりになると考えます。そのために我々は、一人でも多くの市民に「おいでん祭」に携わる方々のまつりに対する想い、まちに対する想いを感じとっていただく機会を提供するべきではないでしょうか。そうした経験をすることで、まつりに対する意識変化を促し、次代へと永続的に繋がる「ふるさとのまつり」へと昇華すると考えます。

私は青年会議所に入会し、時に厳しくもメンバーに道を示してくれる先輩諸兄の雄姿に憧れや尊敬を持ちました。今後も中津川青年会議所がまちに必要とされる団体として発展していくために、私は副理事長として先輩諸兄に負けない情熱を持ち、メンバー一人ひとりとの絆を大切に、メンバーを下支えし、委員会の枠を超えた結束を強く持っていただけるよう努めて参ります。

<まつり委員会>

多くの市民に郷土愛を育んでいただくためにも、「おいでん祭」に関わる一步を踏み出せる機会を提供していただきたい。また、安全安心を第一に、多くの市民が携われる「おいでん祭」を開催していただきたい。